

# 令和4年度 西東京市公民館 事業評価表

※ 評価欄 A～D  
 A・・・十分達成している  
 B・・・概ね達成している  
 C・・・今後の努力が必要  
 D・・・達成できていない

令和3～6年度 事業計画	
<p><b>【基本目標】</b> 共生社会の実現に向けて、地域の中へ踏み出す公民館</p> <p><b>【基本方針】</b> 開かれた公民館～あらゆる市民に向けて                      開きかける公民館～地域・社会に向き合う                      ・地域とともに～地域の中で、一緒に                      ・地域の中につながるを～ともに生きる地域を</p>	<p>■開かれた公民館～あらゆる市民に向けて                      ・身近に感じてもらえるように、気軽に参加でき、市民の関心に沿うような多様な幅広い事業を行います。                      ・市民の潜在的ニーズの把握に努め、現役世代や若い世代など、公民館の利用が少ない層に向けた事業に取り組みます。                      ・独自の高齢者、異なる文化背景を持つ人、障がいのある人、困難を抱えている人など、社会的制約を受けやすい人、社会的に孤立しがちな人を対象とした事業に取り組みます。                      ・市民が必要とする情報を手に入れることができるように、また、公民館が届けたい情報を届けたい人に届けることができるように、市ホームページやSNSの活用をすすめ、広報活動の充実に努めます。</p> <p>■開きかける公民館～地域・社会に向き合う                      ・市民が抱く疑問や漠然とした不安、直面する問題等を学習課題化し、学びの場を提案します。                      ・市民が主体的に学びを発展させていくことができるよう、継続的に学びの場を用意します。                      ・市民が学びを実践につなげていく営みを支援します。</p> <p>■地域とともに～地域の中で、一緒に                      ・公民館の中にとどまらず、他の公共施設や公共的空間など、地域の中で事業を実施します。                      ・まち歩き、地域を知る事業を実施します。                      ・個人や団体が運営する地域の居場所等、一緒に事業を行います。                      ・市民、団体、機関等と連携、協働して、事業に取り組みます。                      ・受講者や公民館で活動する団体が、公民館での学びや活動の成果を地域へ広げていくことを支援します。                      ・協議や関係機関と課題・目的を共有し、それぞれの独自性をいかして役割分担しながら、連携して事業に取り組みます。                      ・地域の課題と向き合い、学習課題化して、学びの場を提案します。                      ・ロビー、公民館施設内にとどまらない、地域へと広がる、まちの中の出会いと交流の場として活かしていきます。</p> <p>■地域の中につながるを～ともに生きる地域を                      ・地域の中に、学びを通して人と人が出会い、交流し、関係を育む機会を生み出します。                      ・日々の暮らしの中では知り合う機会が少ない人と出会い、交流する機会を提供します。                      ・地域で活動する多様な団体・機関が関係を形成していくことを支援します。</p>

項目	評価区分	基本方針				評価内容	実績指標	令和4年度の目標(課題)	実績	公民館(1次)評価		公民館運営審議会(2次)評価									
		開かれた公民館	開きかける公民館	地域とともに	地域の中につながるを					評価	評価及び課題	評価	評価及び課題								
(1) 学級・講座	個別事業	多様な幅広い事業・公民館の利用が少ない層に向けた事業・社会的制約を受けやすい人、社会的に孤立しがちな人を対象とした事業	開かれた公民館	開きかける公民館	地域とともに	地域の中につながるを	<p><b>【だれもが学べる学習機会の提供】</b> 社会的に制約を受けやすい人、社会的に孤立しがちな人を対象とした事業の実施                      ・対象者別事業の実施(子ども対象・親子対象・青少年対象・高齢者対象・障がい者対象・外国人対象など)                      ・社会的に制約を受けやすい人、社会的に孤立しがちな人を対象とした事業の実施</p>	<p>公民館の利用が少ない30～50歳代に向けての事業に取り組む。</p>	<p>全事業数 77件                      一般対象 25件 / 多世代交流 2件                      【生涯にわたる学習機会の提供】                      子ども対象 4件 / 青少年対象 6件 / 親子対象 7件 / 成人対象 23件 / 勤労者対象 2件 / 高齢者対象 2件 / 子育て中の保護者対象 6件 / 子育て中の女性対象 5件 / 女性対象 1件 / 男性対象 0件                      【社会的に制約を受けやすい人、社会的に孤立しがちな人対象】                      障がい者対象 4件 / 外国人対象 1件                      【学習支援保育付き事業】 9件                      【30～50歳代に向けての事業】                      ライフデザイン講座(オンライン参加可)                      ※重複あり</p>	<p>A                      ・引き続き、子どもから高齢者まで、ライフステージに応じた課題を取り上げた事業を実施した。                      ・昨年度に引き続き、公民館の利用が少ない層に向けた事業として、中学生・高校生を対象としたダンス講座、30～50歳代の就労世代を主たる対象とした、オンラインによる参加可能なライフデザイン講座を実施した。公民館主催事業に初めに参加する人の割合が前者は100%、後者は58.8%だった。事業の内容が、対象とした世代のニーズに合わせて考えた。                      ・各戸公民館で継続的に取り組んでいる障がいのある人、ない人が一緒に活動する「インクルーシブな社会をめざす講座」からは、昨年度に引き続き、自主サークルが充足した。                      ・結果として多世代が交流するのではなく、多世代交流を課題とした事業に取り組む。</p>	<p>A                      ・引き続き、子どもから高齢者まで、ライフステージに応じた課題を取り上げた事業を実施した。                      ・昨年度に引き続き、公民館の利用が少ない層に向けた事業として、中学生・高校生を対象としたダンス講座、30～50歳代の就労世代を主たる対象とした、オンラインによる参加可能なライフデザイン講座を実施した。公民館主催事業に初めに参加する人の割合が前者は100%、後者は58.8%だった。事業の内容が、対象とした世代のニーズに合わせて考えた。                      ・各戸公民館で継続的に取り組んでいる障がいのある人、ない人が一緒に活動する「インクルーシブな社会をめざす講座」からは、昨年度に引き続き、自主サークルが充足した。                      ・結果として多世代が交流するのではなく、多世代交流を課題とした事業に取り組む。</p>										
												<p><b>【利用者ひろげる取り組み】</b> 公民館に足を運ぶことがない人、公民館主催事業に参加したことがない人に向けての事業に取り組んだ</p>	<p>・参加しやすい事業の実施                      ・公民館主催事業に初めて参加した人の割合</p>	<p>参加しやすい条件整備として、オンラインを活用する。</p>	<p>A                      ・比較的参加しやすい催しや鑑賞目的の事業、教養講座、趣味講座に加え、昨年度に引き続き、公民館の利用が少ない層(中学生～青年、50歳代までの就労世代)に向けた事業 4件                      ・参加しやすい条件整備として、来館だけでなく、オンラインによる参加も可能な講座を3事業実施した。うち2事業は、50歳代までの就労世代を対象とした講座と不登校をテーマとした講座である。勤労者や当事者にとって、自分からの参加が可能で、匿名性が守られるオンライン参加は、受講を後押しするものであったと考えられる。コロナ禍に対応としてスタートしたオンラインの活用が、何らかの理由で来館が困難な市民に向けて有効であることがわかった。                      ・公民館を利用することがない人に向けて、聴講型の事業のオンライン開催や事業実施後の動画配信等、オンラインの幅広い活用を検討する。                      ・学習ニーズに応じた主催事業があれば市民は参加すると考えられるので、市民の潜在的な学習ニーズの把握に努める。</p>	<p>A                      ・コロナ禍より始まったオンライン活用を更に進め、公民館に直接足を運ばなかった受講者の参加を後押しできた。また、市のホームページに講座の動画を配信して関心の高さを広げ、趣味講座、保育付き講座、夏休み親子講座、ライフデザイン講座など特徴をもった参加しやすい事業を実施され、特効に馴染みのない参加者を呼び込んだ。                      ・今後もオンラインを活用できる事業、また事業後の動画配信を更に進めてほしい。新たな利用者を増やすために参加しやすい事業や気軽に参加したい講座を更に充実させたい。</p>					
																	<p><b>【学びの課題】</b> 市民の多様な学習要求に応える学習の機会を提供することができたか</p>	<p>取り上げた課題(子育て、環境、防災など)</p>	<p>継続的に取り組んでいる課題に取り組むとともに、市民の学習要求の把握に努め、新たな課題にも取り組む。</p>	<p>A                      ・継続的に取り組んでいる地域課題や社会的課題を中心に多様な課題に取り組んだ。特に、令和4年度の課題 2件 / 高齢者対象 1件 / 防災 1件 / インクルーシブ 1件 / 労働 1件 / 貧困問題 0件 / 人権 3件 / 平和 3件 / 環境 2件 / 国際理解 2件 / 多文化共生 2件 / まちづくり 3件 / 実技 1件 / その他 13件(農業、不登校、現代史等)                      ※重複あり</p>	<p>A                      ・継続的に取り組んでいる地域課題や社会的課題を中心に多様な課題に取り組んだ。特に、令和4年度の課題 2件 / 高齢者対象 1件 / 防災 1件 / インクルーシブ 1件 / 労働 1件 / 貧困問題 0件 / 人権 3件 / 平和 3件 / 環境 2件 / 国際理解 2件 / 多文化共生 2件 / まちづくり 3件 / 実技 1件 / その他 13件(農業、不登校、現代史等)                      ※重複あり</p>

				・教科書や予いの提供 ・学びを実践につなげていく富みの支援						【協働・連携、協力の推進】 市民・団体・機関等と連携・協働した事業を企画、実施することができたか	・他課との協働・連携 ・他教育施設との協働・連携 ・他公共機関との協働・連携 ・市民団体・地域団体等との協働・連携 13件 ・地域人材との協働・連携 3件 ・社会教育課、図書館との連携事業「まちなか先生」を実施 2種類の講座を小学校1校1校で合計18回実施 ※重複あり	地域団体等との協働・連携を進める。	全事業数 77件 協働・連携事業 15件 ・他課との協働・連携 2件 ・他公共機関との協働・連携 2件 ・市民団体・地域団体等との協働・連携 13件 ・地域人材との協働・連携 3件 ・社会教育課、図書館との連携事業「まちなか先生」を実施 2種類の講座を小学校1校1校で合計18回実施 ※重複あり	A	◇・令和3年度に引き続き、市民団体や地域団体との共催の継続事業を実施した。 ・社会教育課、図書館と連携して、専門職員や地域人材、地域団体等講師に市立小・中学校で授業を行う「まちなか先生」については、令和3年度に引き続き、平和講座と防災講座を実施、多数の地域人材の協力を得て、グループワークを行った。 ◆引き続き、市民、団体、関係機関と協働・連携した事業に取り組み。	◇他課、市民団体、地域団体とは連携から協働の形に進化しており、対等な関係で学びあいを深めてきていると評価できる。中学生・高校生の講座からは第3の居場所としての学びを促す交流も生まれている。まちなか先生の講座は社会教育活動として、地域と子ども、公民館をつなぐ活動として成果をあげている。 ◆まちなか先生の事業報告があると内容がわかりやすい。利用できる学校に限りがあるが、できれば全校で利用できるよう教育委員会を含め検討してほしい。	
										【プロセス重視の運営】 プロセス重視の事業企画・運営に努めたか 市民の主体性を尊重し、自治能力の向上につながる学習の支援ができたか	・準備会 ・実行委員会 ・参加型学習(グループワーク、ワークショップ等)の工夫 ・学習成果の発表	企画や講座運営への市民参加を進める。	全事業数 77件 ・準備会 12件(15.6%) ・実行委員会 7件(9.1%) ・参加型学習を取り入れた講座の実施数 38件(49.4%) ・学習成果の発表 14件(18.2%)  成人対象の学習目的の事業 39件 ・参加型学習を取り入れた講座の実施数 28件(71.8%) ・学習成果の発表 3件(7.7%) ※重複あり		◇・令和3年度に引き続き、継続事業については準備会を行い、企画段階からの市民参加を進めた。 ・彦根市民館の「中学生が企画」小学生向け防災講座は、準備会を24回開催し、講師の助言を得ながら中学生が講座を企画し、運営も担当した。準備会が中学生にとっての学びの場となった。 ・参加型学習を取り入れた講座は全体の49.4%、学習を目的とした事業に限定すると、全体の71.8%にのぼる。プロセス重視の事業企画・運営に努めた。 ◆引き続き、企画や講座運営への市民参加を進める。	◇プロセス重視の事業、講座の運営の様子は、企画から準備まで次につながる事業展開の報告が多く、丁寧に実施されていると評価できる。コロナ禍で実施できなかった各館が市民と実行委員会形式で作り上げる「まつり」が全館で実施できたことは評価できる。アンケートの併用など今後も工夫して運営をしていきたい。 ◆「まつり」の意味意義を再確認するとともに、新規の団体を巻き込み、地域に根差した新しい形への構築も必要だが、利用者の声も十分反映してほしい。今後も多世代の参加や後継者の拡大を見据えた運営を期待したい。	
										【学習者の評価】 学習者は、どのような評価をしているか	・アンケートによるプログラム・講師・運営に対する学習者の満足度	満足度調査以外のアンケート項目や自由記載等から、受講者の評価の把握につとめる。	全事業数 77件 (A:満足 B:ほぼ満足 C:やや不満 D:不満) AとBの合計が80%を超える事業数 プログラムの満足度 60件(調査対象61件) 講師の満足度 60件(調査対象60件) 運営の満足度 60件(調査対象61件) ※アンケート実施事業数 61件 うち回収率80%以上 47件	A	◇受講者へのアンケート結果や感想から、事業・講座に対する受講者の満足度は高いと判断できる。 ◆満足度調査は他の評価でも使用するため、引き続き実施するが、アンケートの他の項目や自由記載欄、感想等から、受講者の評価を把握し、公民館として共有するよう、努める。	◇連続講座は、特に評価項目の他にアンケートに書かれた感想、意見の中身が深く、講座の質が良くなる。プロセス重視の講座が多岐にわたり実施され、その感想を読みと受講者の評価内容がよくわかり、満足度が高いことがわかる。 ◆基本的なアンケート回収率は高かった。講座の中で、意見交換の時間やアンケートの時間をいれて、着書しての回答してもらう等、アンケートの取り方工夫が必要。また講座外での雑談の時間なども、貴重な意見を得る場として大切にしたい。	

項目	評価区分	基本方針				評価内容	実績指標	令和4年度の目標(課題)	実績	公民館(1次)評価		公民館運営審議会(2次)評価	
		開かれた公民館	問いかける公民館	地域とともに	地域の中につながりを					評価	評価及び課題	評価	評価及び課題
(2)	施設管理					【学習環境の整備】 社会教育施設として、市民の主体的な学習活動を支援する環境整備に努めたか	・団体連絡箱の適切な提供 ・印刷機等の提供 ・ロビーの環境整備	新型コロナウイルス感染状況に応じて、ロビー利用にかかる規制緩和を進める。	・団体連絡箱利用団体数(6館合計)336団体 ・印刷機利用件数(6館合計)1140件 ・田無公民館は令和3年度に耐震補強等改修工事を実施、1階ロビーに学習コーナーを設けることとし、公衆無線LANを整備 ・利用団体へのモバイルWi-Fi(田無公民館はWi-Fiルーター)の貸し出しにより、部屋でのインターネット利用を可能とした。 ・新型コロナウイルス感染対策として、全館全部屋に二酸化炭素計測器を設置。	A	◇・令和3年度に引き続き、手指消毒剤の設置、備品消毒剤の提供等、新型コロナウイルス感染拡大防止に留意した環境整備を行った。 ・国の方針の実現によりロビー利用にかかる規制を緩和するにあたって、各館で、マイアツを見直し等、ロビーの環境整備を行った。 ◆公衆無線LANの設置の検討等、ロビーの環境整備に努める。	A	◇新型コロナウイルス感染症拡大防止対策は慎重に行われ、安心安全な学習環境が維持された。また国の規制緩和に伴う学習環境への対応も適切であった。ひびりが丘公民館の窓の小さなガラスを印刷室に換気扇を通して利用可能にし、田無公民館の改修後のロビー活用は新しい環境を生かして意図的に取り組まれた。 ◆田無公民館ではロビーのWi-Fi活用が盛んだが、全館でのWi-Fi整備も進められている。今後も赤ちゃんから高齢者まで集う場として、感染症やCO2等への対策に配慮したい。
	防災					【防災】 防災・減災対策に取り組んだか	・防災訓練の実施 ・防災対応マニュアルの整備	全館で防災訓練を実施する	防災訓練の実施 ・柳沢、田無、芝久保、各戸、ひびりが丘 保育引取り訓練 1回 ・田無、芝久保、各戸 公民館・図書館合同避難訓練 1回 ・柳沢 防災無線、AED等防災関係機器の操作等確認 1回 ・ひびりが丘 職員対象訓練 2回 ・保谷駅前 ビル管理会社主催避難訓練 2回	A	◇内容は様々であるが、全館で防災訓練を行った。 ◆各館で、職員・警備員や利用者を対象とした防災訓練等の実施を検討する。	A	◇各公民館の建物の特徴に合わせて工夫した防災訓練を実施し、保育室のある公民館では保育引取りも実施されるなど、利用者を取り込んだ防災対策が実施されている。 ◆今後も各館の特徴に合わせて手厚い防災・救急訓練の実施、特に利用者の高い高齢者対象の訓練の実施を望みたい。また、夜間や土日の職員不在時を想定した警備員や利用者への訓練・働きかけを行ってほしい。

項目	評価区分	基本方針				評価内容	実績指標	令和4年度の目標(課題)	実績	公民館(1次)評価		公民館運営審議会(2次)評価	
		開かれた公民館	問いかける公民館	地域とともに	地域の中につながりを					評価	評価及び課題	評価	評価及び課題
(3)	窓口業務					【学習情報整理】 学習情報の収集・整理・共有化を行い、市民の学習に繋がるような情報提供を行ったか	・団体一覧の更新(年1回) ・団体登録の更新(5年1回) ・団体の館内掲示物・配布物の整理・保管 ・公民館利用団体紹介冊子の作成	公民館利用団体紹介ファイルを作成する。	・団体の定期的な活動情報の更新(年1回) 実施 ・全館に同一内容の閲覧用サークル紹介ファイルを設置	A	◇引き続き、公民館登録団体一覧やサークル紹介紙、ポスターの掲示、チラシの配架等により、団体及び学習情報の整理、提供を行った。 ◆全館に同じ内容の公民館利用団体の活動紹介ファイル閲覧用に設置した。 ◆インターネットを活用して公民館利用団体を紹介することを検討する。	A	◇全館に同一の利用団体活動紹介ファイルが設置され、新たな利用者への利便性が増し、ファイルを通して職員との情報交換や交流も行われるようになった。 ◆インターネットを通じての学習情報の発信はまだ未開拓で、今後十分検討の余地があるが、その中でも窓口に来て直接公民館職員と情報交換できるしかの検討も期待したい。
	窓口対応					【窓口対応における学習支援】 市民の学習の質を高め、継続的なものにするのできるよう学習相談を行ったか	・公民館登録団体に関する情報提供 ・団体からの各種相談に対する対応	活動が停滞したり、会員数の減少により存続の危機にある公民館利用団体を支援する。	・書面による公民館登録団体の紹介 211件 ・会員募集を行う公民館利用団体を支援する取り組み サークル見学月間・1日ロビー見学体験会(田無) サークル見学・体験会(ひびりが丘)	B	◇引き続き、窓口及び電話で、市民の求めに応じて、団体情報の提供を中心とした学習相談を行った。 ・主催講座から発足した自主グループ等の相談にも対応し、支援した。 ◆サークル見学・体験会等、田無及びひびりが丘公民館で、公民館利用団体の会員増につながる取り組みを行った。 ◆学習相談の記録の作成を検討する。 ◆田無及びひびりが丘の取り組みを参考に全館で、公民館利用団体の会員増につながる取り組みを検討する。	A	◇窓口、電話等で市民の学習相談に適切に対応でき、主催講座から発足した保育付き自主グループの学習支援も適切に行われた。 ◆窓口、電話での相談内容は今後の学習支援への大切なデータになるので、相談内容ジャンル、相談者のデータ、支援内容のわかる簡単なフォーマットを作成することを提案したい。

項目	評価区分	基本方針				評価内容	実績指標	令和4年度の目標(課題)	実績	公民館(1次)評価		公民館運営審議会(2次)評価	
		開かれた公民館	問いかける公民館	地域とともに	地域の中につながりを					評価	評価及び課題	評価	評価及び課題
(4)	広報	広報	・広報活動の充実			【公民館だより】 公民館だよりを通して、市民に公民館や地域に関する情報を発信したか	・掲載記事の内容	公民館事業の広報だけでなく、地域情報等の提供に努める。	【特集記事】2回 【公民館関係】 田無公民館再案内 1回 主催事業報告 1件 サークル紹介 1回 【連載記事】 まちあるき 2回 ミニ紙面講座 4回	◇令和3年度に引き続き、QRコードの活用や主催事業募集記事の量の適正化等により、公民館に関する広報だけでなく、市民が地域を知ることができるとともに、市民が地域を知ることができた紙面を有効に活用しつつ、公民館の広報だけでなく、地域に関する情報や市民の交流につながる紙面づくりに努めるとともに、紙面の刷新に取り組む。	A	◇公民館運営審議会委員も企画に関わり、市民の声を生かして作られた地域を知る特集記事や連載記事は読みごたえがあった。限られた紙面に必要な情報を目に留まりやすく工夫した紙面づくりが行われている。 ◆今後も情報発信の充実工夫に取り組むと共に、4面発行の回数を増やして2面で掲載しきれない公民館の事業紹介や地域の情報、文化の発信に取り組むことを期待したい。	
						【幅広い広報】 市ホームページやSNS等の公民館だより以外の媒体を活用した広報活動に努めたか	・市ホームページの活用 ・SNSの活用	市ホームページ等を活用し、広報の充実を努める。	・市ホームページ上に公開した実施事業の動画 1件 ・市SNSを利用した事業案内 合計 延べ93件 X(10ツイッター) 32件 フェイスブック 31件 ライン 30件 ・公民館、図書館をはじめ市内公共施設におけるスターの掲示及びチラシの取組 ・市内に設置されている掲示版でのポスター掲示	◇市ホームページの公民館のページの整備を行った。 ・地域コミュニティアプリ、ピアッザを用いた情報発信を始めた。 ・Logoフォームを導入し、市ホームページでの事業の広報と申込受付をつなげた。 ◆市内掲示版、ASTAビジョン、FM西東京やプレスリリース等も含めて、また十分に市内の広報手段を活用できていない部分があるため、使い方も含めて職員が理解を深め、広報意識を高める。	B	◇メディアを使った事業の広報活用はまだ進化の過程といえるが、利用者の幅を増やしていきつつあることは評価できる。 ◆FM西東京など現在使っているメディアでの広報や、各館のホームページでのアピールなどまだまだ工夫の余地が多いと感じる。多世代の人に届く広報のあり方をさらに工夫検討していきたい。	

項目	評価区分	基本方針				評価内容	実績指標	令和4年度の目標(課題)	実績	公民館(1次)評価		公民館運営審議会(2次)評価	
		開かれた公民館	問いかける公民館	地域とともに	地域の中につながりを					評価	評価及び課題	評価	評価及び課題
(5)	長期の視点での気づき	学習成果	学習成果			【学習の継続と成果】 事業参加者の学習活動の総括・学習成果の発表・学習の継続を支援したか	・学びの振り返りの会の実施 ・記録誌、記念誌の発行 ・学習成果の発表 ・主催講座からサークル化した団体数	多様な方法で受講者自身による学習活動の総括を支援する。	・振り返りの会の実施 1件 ・公民館保育室活動の記録誌発行 5冊(各館1冊) ・主催講座の記録誌発行 11冊 ・まつり記念誌発行 3冊 ・サークルの発足 8団体 ・市ホームページにおける学習成果等の発表 1件	◇・短期の趣味講座3事業と、地域課題を取り上げた講座2事業から自主サークルが発足。職員の適切な支援の結果と考えられる。 ・地域防災講座参加者が講座の学びを地域活動へつなげる動きを支援する取り組みとして、BOSAカフェを実施した。 ◆引き続き、自主サークル化、記録誌の作成、発表、振り返りの会など、多様な方法により、参加者自身による学習活動の総括を支援する。	A	◇記録誌作成やBOSAカフェの立ち上げなどを進じて、受講者が成果を実感でき、次の活動につながる取り組みが実施されている。職員の適切な支援により、短期講座からも自主サークルが発足している点は評価できる。 ◆公民館のホームページを活用して、成果を発表していく事業のPRにもなり、今後につながるのではないかと。	
						【学びの還元】 公民館で長期的な活動を行う市民・団体を地域資源として活用するとともに、その学習成果の地域還元を支援したか	・人と人がつながる機会の提供 ・団体・機関の関係形成を支援	・市民・団体の協力による事業実施 25件 ・市民、団体との協働・連携による事業 16件 ・地域交流事業の実施 11件 ・ロープにおける市民団体による学習の成果発表数 25件 ・市民企画事業の実施 20件 ・まちなか先生 2種類の講座(講師:地域団体1講座、講師:地域人材1講座)を小学校11校で合計18回実施	市民が学びを地域活動へとつなげる動きを支援する。	◇・田無、柳沢、芝久保、ひばりが丘、保谷駅前公民館では、新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で、実行委員会方式により地域交流事業を実施した。 ・地域防災講座参加者が講座の学びを地域活動へとつなげる動きを支援する取り組みとして、BOSAカフェを実施した。 ・市民企画事業においては、コロナ禍で実施を控える団体がある中、新規団体3団体の利用があった。 ◆学びを地域活動へとつなげる市民の動きを支援する。	A	◇実行委員会方式の公民館のまつりが再開され、市民の喜びの声を聞いた。また「谷戸まつり」は市民主催で公民館は協力の立場だが、地域に根づく交流事業として評価できる。市民企画事業も活発に取り組まれている。 ◆まちなか先生事業は、子どもたちに公民館を知ってもらう機会でもある。長期的な視点で企画もより進めやすい形を研究していきたい。	
						【市民参加】 市民本位の公民館運営の実現のために、館の運営及び事業の企画・運営への市民参加を促進したか	・公民館運営審議会の開催 ・事業実施のための準備会開催 ・実行委員会方式による事業の実施 ・利用者懇談会の開催	・公民館運営審議会の開催 10回 ・公民館運営審議会の傍聴延べ 27人 ・事業実施のための準備会 12件 ・実行委員会方式による事業の実施 7件 ・全館で年2回の利用者懇談会を定期開催 ・対象者別利用者懇談会の開催 ・柳沢1回(陶芸)、田無1回(調理)、芝久保1回(陶芸) ・定例の利用者懇談会のあり方について公民館運営審議会の意見を聴く機会を設けた。開催にあたっては、各館で公民館運営審議会委員と一緒に内容を検討し、運営を行った。	利用者懇談会のあり方を検討する。	◇・地域交流事業以外の8事業で準備会を開催。企画段階からの市民参加に努めた。 ・利用者懇談会開催にあたり、公民館運営審議会の意見をふまえて、利用団体へのアンケート調査を行うとともに、実施内容の見直しを行った。 ◆引き続き、利用者懇談会の内容について検討し、充実に努める。	A	◇保育付き講座や利用者懇談会のあり方を、公民館運営審議会委員も共に考える機会があった。その結果、審議会や懇談会の意見が運営や事業計画に反映されていることを実感できた。利用者懇談会にも委員が積極的に参加した。 ◆利用者懇談会が、参加者の公民館についての学びや話し合いの場となるような運営を、今後も公民館運営審議会委員とともに作ってほしい。	
【地域の中での事業実施】 公民館の施設にとどまらず、まちの中で主催事業を実施したか	・地域の中で事業実施 ・市民、団体、機関との連携・協働	・他施設を利用した主催事業の実施	地域人材や地域団体等と協力しながら、地域の中で事業を実施する。	・他施設等を利用した主催事業の実施 12件 ・路上資源庫 14件、公園等 5件、産地 2件、公共施設 1件、まち歩き 1件、その他 14件 ・小学校11校で「まちなか先生」を実施。2種類の講座を合計18回実施。		◇地域人材や地域団体等と協力しながら、地域の中で事業を実施した。 ◆公民館が設置されていない、西池袋線以北の施設を利用して、事業を実施する。	B	◇地域の中に出向く公民館として充実した事業展開が期待されている。 ◆公民館のない地蔵線以北の地域に出向く、どのような事業が展開できるか、今後の課題として取り組むことを期待したい。					

項目	評価区分	基本方針				評価内容	実績指標	令和4年度の目標(課題)	実績	公民館(1次)評価		公民館運営審議会(2次)評価	
		開かれた公民館	問いかける公民館	地域とともに	地域の中につながりを					評価	評価及び課題	評価	評価及び課題
令和3年度									<基本方針1 該当事業 56件> 全事業の72.7% ・該当事業のうちアンケートを実施した事業 42件 うち初めて公民館主催事業に参加した人が50%を超えた事業 13件 <内訳> 子ども対象事業 2件 中学生・高校生対象事業 1件 現役世代を対象とした事業 1件 保育付き講座 4件 楽技 4件 観賞 1件	◇・実技の講座3講座から自主サークルが発足した。 ・公民館の利用が少ない層に向けた事業として、中学生・高校生や青年を対象としたダンス講座、軽音楽講座、30～50歳代の就労世代を主たる対象とした、オンラインによる参加が可能なライブデザイン講座を実施した。 ・市ホームページの公民館のページの整備を行ったり、地域コミュニティアプリ、ピアッザを用いた情報発信を始めたことなど、広報活動の充実に努めた。 ◆広報活動の充実に取り組む。	A	◇ライブデザイン講座は平日夜間開催、オンライン併用を意図的な試みで、現役世代取り込みの姿勢が評価できる。また、その他にも若者、中高生が参加する講座も増えてきて、着実に各世代を取り込むチャレンジがされている。 ◆ホームページ・SNSなどあらゆる媒体を活用して、各世代に広く広報をめざしたい。	

5 年 度 事 業 計 画	問いかける公民館～地域・社会と向き合う	・地域課題、社会的課題を取り上げた事業 ・継続的な学習機会の提供 ・学習を実践につなげていく支援	<基本方針2 該当事業 21件> 全事業の27.3% ・該当事業21事業はすべて成人対象事業 うち地域課題の取り上げ 13件 (61.9%) 現代的課題の取り上げ 5件 (23.8%) ・継続的な学習機会の提供 9件 ・学習を実践につなげていく支援 1件	A ◇・地域課題、現代的課題を取り上げた、継続的に取り組んでいる講座は、市民の学びの進展に応じて継続的な学習の機会を提供した。 ・学習を実践につなげていく支援として、BOSAIカフェを実施した。 ◆市民の潜在的ニーズの学習課題化に努める。	A ◇不登校を考える講座では、オンラインを活用することで参加者の幅を増やし、各世代で課題に取り組むことができたことなど、新しい試みが評価できる。 ◆多様性のある現代社会では地域課題もさまざまなで、特に潜在化している課題を把握することは難しい、今後はこれらの課題を把握し学習課題にしていく姿勢が求められる。
	地域とともに～地域の中で、一緒に	・地域の中での事業実施 ・市民、団体、機関との連携・協働 ・地域課題の取り上げ	<基本方針3 該当事業 31件> 全事業の40.3% ・地域の中での事業実施 8件 (25.8%) ・市民、団体、機関との連携・協働 14件 (45.2%) ・まちなか先生 2種類の講座を小学校11校で合計18回実施	A ◇・昨年度に引き続き、他施設を利用した講座や市民、団体、機関と連携・協働した事業、まちなか先生事業を実施した。 ・市民から提起された地域課題を学習課題化し、次年度の事業計画に反映させた。 ◆地域課題を把握する方法について、検討する。	A ◇ひとりひとりの市民の声を丁寧に取り止める、学習課題として取り上げるなど、職員の見聞姿勢は評価できる。 ◆今後も地域課題については継続的に取り組む、市民とともに考える公民館の存在意義を伝えていきたい。
	地域の中につながりを～ともに生きる地域を	・市民の間の関係形成への支援 ・団体・機関の関係形成への支援	<基本方針4 該当事業 15件> 全事業の19.5% ・青少年の仲間づくり 2件 ・多世代交流 2件 ・地域づくりにつながる関係形成 7件 ・団体・機関の関係形成への支援 6件	B ◇高齢者が多く参加した3講座から自主グループが発足した。 ◆事業の運営にあたっては、人と人、団体と団体の関係形成に留意する。	B ◇地域づくりにつながる自主グループや仲間づくりが着実に取り組まれている。 ◆地域の中につながるためにも、さらに参加者、学習者の声をよく聞き、その地域にある課題を多角的な発想で受け止めて、地域住民とともに歩んでほしい。

■※1. **学習支援保育とは**…乳幼児を育てている市民に対して、多様な学習機会を保障し、出会いと学びあいの機会を生み出すような公民館の公費保育制度です。親子の学びと成長を継続的に支え、学びの成果を地域へ発信・還元できるように支援します。

■※2. **市民企画事業とは**…市内の自主グループが企画した事業を一定の審査の上、公民館事業として実施するものです。自主グループが日頃の活動で培った知恵やノウハウを生かして市民にさまざまな学習機会を提供し、地域を豊かにすることが目的です。